

私学協会長賞

世界の命をつなぐ水

不二聖心女子学院中学校

一年 勝俣 さん

母から家の近くに湧き出る水があると聞いて、柿田川湧水に出かけたことがある。富士山の雪解け水で、三十年くらいかけて地下を通り地上に湧き出るということが看板に書いてあって驚いた。冷たそうな水は透き通っていて、沸とうしているみたいにボコボコと湧き出ている。

二年前は、お正月になっても富士山に雪が降り積もらなかった。私は、三十年くらいかけて雪解け水が湧き出るところを考えると、三十年後に水不足になってしまうかもしれない、ととても不安になった。

でも私は、夏になれば家の庭にプールを出して毎日のように水浴びをしていた。のどがかわけば、蛇口をひねって当然のようにおいしい水を飲んでいた。富士山にきちんと雪が降れば水に何の心配はないのだ、と私は思い込んでいた。

ある晩、テレビをつけると「蛇口の水が飲めるのは、当たり前ではない」というニュースが放送されていた。しかし、番組はちょうど終わるところで、私には疑問だけが残った。世界には、なぜきれいな水を飲めない人が沢山いるのだろうか。

調べてみると、世界で安全な水源が利用できていない人は、約二十億人もいる。さらに、トイレや下水道などの衛生設備を利用できない人も三十六億人もいることが分か

った。水道も、整備された井戸もない人々は、遠くにある水源まで水を汲みにいって暮らしている。しかし、水源といても、消毒されていない沼や池、浅い井戸、壊れた配水管、川などが多い。だから、泥やゴミ、病原菌や寄生虫などに汚染された水を利用することになる。

私は、世界には、遠くまで水を汲みに行つてまで、汚い水しか飲めない人たちが沢山いるということを知つた。また、毎日水の重さにたえながらも家族、自分のために遠い道のりを苦しそうな顔で歩き続ける姿を想像すると、とても胸が痛くなった。

私たちの住む日本は、全国どこでも蛇口をひねれば水が出るという水環境に恵まれている。日本ほどに自由にぜい沢に水が使える国はないのかもしれない。また、飲み水はもちろん、お風呂、トイレまできれいな水を使っているのが当たり前だと思つていたけれど、世界の中では、必死に水を手に入れ、それを命のように大切に扱っている環境もあるということが分かった。

水は、地球上のすべての命を支えている貴重な資源なのだ。地球環境に配慮した生活を求められる私たちは、きつと世界の水の問題を真剣に受け止めなければいけないのだろう。

毎日、私たちが学校へ行つて勉強している間も、世界の

どこかの子供たちは、苦しい思いをして水を運んでいる。毎日、遠い道のりを歩き、水を取りに行くため、疲れ果てた子供たちには、学校へ行く体力さえ残されていない。毎日、きれいな水を使い、学校で勉強することのできる私には考えられない、絶望的な環境だ。

水の問題を考えると、中学生の私にできることは何だろう、と自分自身に問いかける。あまりに大きくて遠い世界の問題を解決することは難しい。だからまずは、蛇口をひねればきれいな水が出てくることを当たり前と認識せず、大切に使うと思う。無駄に水を流してものを洗つたりしないで、面倒でもひんぱんに水を止める習慣をつけたい。そして、世界中につながっている海や川の水を汚さないように、ゴミ拾いなどの活動に参加し、未来の地球の水を守る努力をしようと思う。一人でも多くの地球の子供たちが、きれいな水を飲めるように。